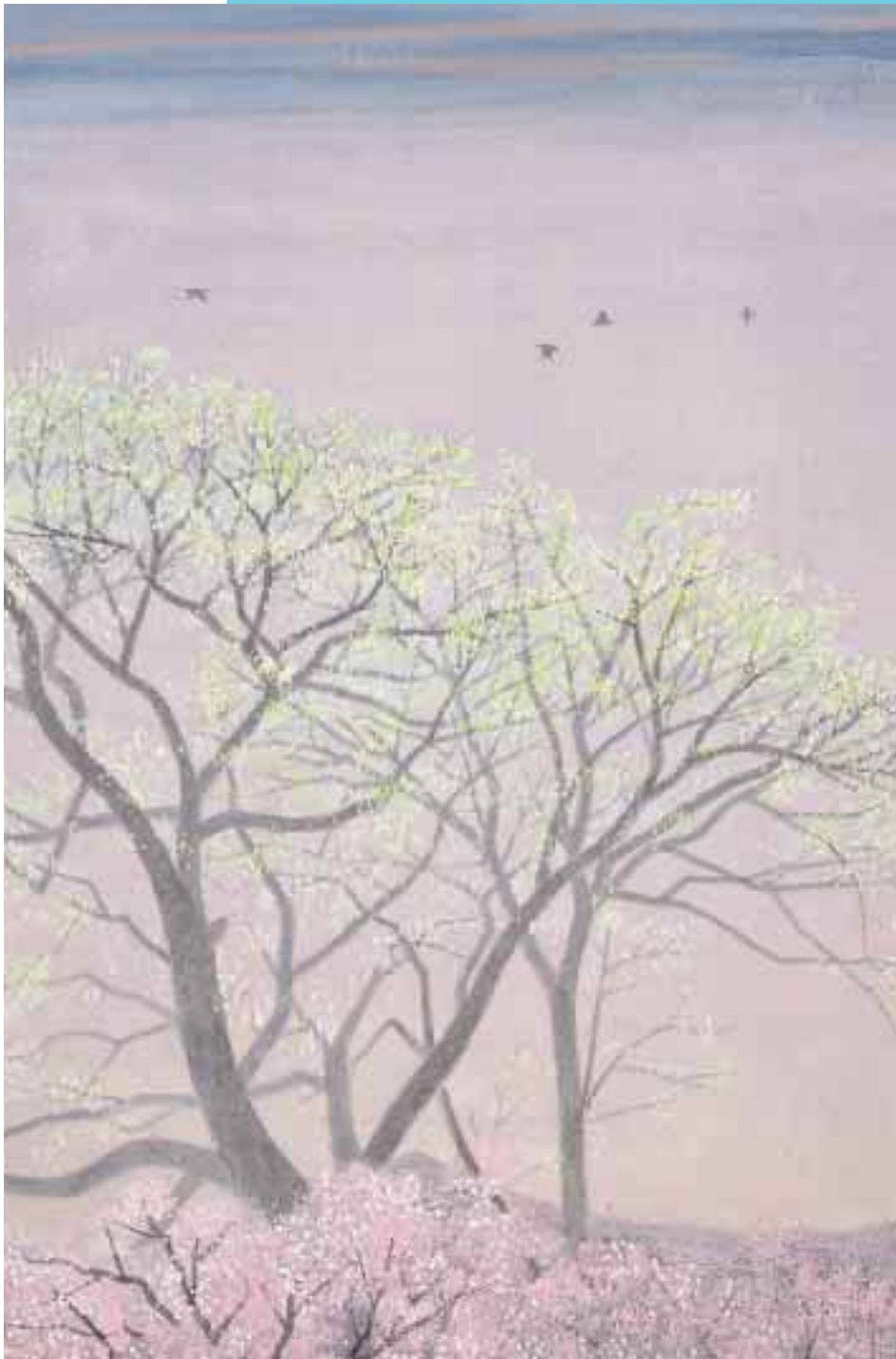


MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

# 無 毒 燈

2006年3月  
No.125



大谷大学同窓会

## 「恩徳普覆」

## 幡谷 明先生にインタビュー



大学の文学部真宗学科において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました幡谷明先生に、尋源館にお越しただいて、お話を伺いました。

先生のご入学当時のお話をお聞かせください。

学生時代から通して四十八年間もお世話になったものですから、色々な方々に出会い、様々なことも経験しました。私が入学したのは終戦直前で、入学試験は四月にあり、入学式は七月でした。当時の学監は訓覇信雄氏と武田香竜氏でした。入学式

では学長の大谷警誠先生が、「朝家の御ため国民のために、念仏もうし」

「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれと祈れ」という親鸞聖人のご消息を引かれて、告辞を賜りました。その後、直ちに学徒動員の結成式が行われて、大阪の造兵廠に動員され、終戦を迎えて、九月に授業が開始されましたが、食糧事情が非常に困難で、先生も学生も栄養失調気味でした。大学のグラウンドも畑になっていて、ほとんどまともな授業にはならない状況でした。昭和二十三年に大谷警誠先生が執務中に学長室で倒れられて、お亡くなりになりました。本当に頭の下がる温厚篤実な学長で、国民服を着用し、学生に交じって諸先生の講義を聴講されているお姿をお見受けしました。その後、次期学長として学生大会で鈴木大拙先生が推挙されましたが、藤岡了淳先生が一年就任され、昭和二十五年から山口益先生が学長に就任されました。その翌年の昭和二十六年に、大谷大学を事情あつて一時、休職されてい

た曾我量深先生と金子大栄先生が名誉教授として復職され、その頃から曾我・金子両先生を中心とする大谷大学の学問が再び盛んに行われるようになったように思います。

育英寮の寮監をされていた頃の思い出、ご苦労されたことをお聞かせください。

私は育英寮で七年間、その後山科寮（大学院生の寮）で四年間、合わせて十一年間にわたって寮監を勤めさせていただきました。当時、折戸町子さんという寮母さんがおられました。折戸さんは、私と同じ島根の田舎から出てこられて、昭和十九年から三十四年間という長い間、寮母を勤められました。折戸さんと谷大との関係は、昭和十八年に台風により島根県で多くの被害が出て、その水害の復旧に大谷大学の勤労奉仕隊が参加した時、親切に世話をされたのがそもそものご縁で、その誠実で明朗な人柄が学生に慕われて寮母になられたようです。私が在寮した頃の食事は家庭的な田舎料理でした。安い食費で食べ盛りの学生をどうやって養ってあげればよいか、ずいぶん頭を悩まし苦労されていました。折戸さんは篤信な念仏者で、私や寮生の有志と一緒に、高倉会館を始めとしてあちこちの法座で聴聞を重ね

られました。平成八年に八十三歳で亡くなりました。私に寮監としての苦労の思い出がないのは、私に寮監としての誠実さと努力が足りなかつたためでしょうが、寮母の折戸さんが、その責任を背負ってくださいましたお陰だと思えます。寮の前の黒田さんにも大変お世話になりました。育英寮は学外の寮として自由な雰囲気があり、学園祭などもよくリードし、優秀な人材が次々と多く輩出しました。

先生の学問研究の歩みについてお聞かせください。

当時の大谷大学は、鈴木先生、曾我先生、金子先生、山口先生をはじめめとして多くの碩学が揃っておられた時代で、とても薫り高いアカデミズムに充溢していた良き時代でした。戦後まもなく、発刊された「展望」という雑誌に三木清の絶筆「親鸞」が掲載せられ、西田、三木という哲学者の全集が次々と発行されたこともあつて、初めは哲学をやりたいと思つておりましたが、真宗学を専攻することにしました。当時の真宗学には、正親舎英先生、名畑応順先生、稲葉秀賢先生がおられました。私の研究科時代の真宗学は曇鸞ブームで、『浄土論註』が中心でした。私も金子先生から「親鸞教学の網格である

曇鸞教学を研究するように」といって指導をいただき、その道を進んできました。当時は、『浄土論註』を通して『浄土論』を読むというのが一般的でしたが、私はそれに対して、先ず『浄土論』を世親教学の上から読むということから始めました。私の場合、殊に曾我先生の真宗仏教を学ぶということが主たる関心事としてありましたが、山口先生の仏教学に非常に惹かれました。そして、次第に私の研究課題は曇鸞によって提示せられ、親鸞聖人によって解明された「大乘の至極としての真宗」を、現在の仏教学の研究成果をも踏まえ、明証することに置かれるようになりました。それで学内、学外の仏教学の諸先生方からも親切なご指導をいただいたことは大変な幸せでした。私は指導教授として、稲葉秀賢先生を選び師事しました。先生は近代における宗学の大成者で、今日、同朋大学の学祖と仰がれる住田智見先生の後継者と言われていました。先生は、倫理学、哲学を経て真宗学を学ばれたことですから、その著作や論文は非常に理路整然としたもので、近代の真宗学を構築することに力を尽くされた先生でした。本当に厳しい先生でした。

教員時代の思い出などをお聞かせください。

私は茶道部の顧問を三十年近く仰せつかりました。谷大の茶道部は裏千家の直屬で、京都における学生茶道の中でも重い位置を占めておりました。部室で部員がお点前をするのを見ていたときは、本当に心やすらぎ、宿が遠方に移るまではよく部室に通いました。よい部員が揃っていました。

教員時代の辛い思い出の一つとして、大学闘争があります。その頃、谷大はどうなるのだろうか、ずいぶん苦しみ、やめようと思ったこともありました。その時、教え子の一人が手ぬぐいに自分の血で「先生やめないでほしい」と書いて持って来てくれました。当時の大谷大学は少人数の大学でしたから、学生と教員が深い絆で結ばれていました。当時、私のゼミには共闘の学生が多く、その後、毎年少人数のゼミでしたが、個性豊かな優秀な学生に恵まれました。退職する前年の平成五年の暮れに手術のため入院、多方面に迷惑をかけましたが、ゼミの大学院生の助力を得て、何とか最終講義も勤めさせていただき、それが『弘願の一乗と大乘の至極』としてまとめられたことは、誠にありがたいことでした。

先生の「大谷大学への願い」をお聞かせください。

「大谷大学への願い」についてはですが、今日のような大変な時代状況の中を生き抜くことは、容易ではないと思います。大谷大学は、清沢先生の「開校の辞」、佐々木月樵先生の「大谷大学樹立の精神」に明示された真宗に生きる人間形成の場であると共に、大学として地道な底の深いアカデミズムを大切に守っていただきたいと思います。



## 鬼と菩薩と

真宗に縁のなかつた私が、傲慢にも親鸞によってまだ自分の可能性を見出しうるかと三回生に編入したのだが、さて、どのゼミに入るかと急遽諸先生の論文を読み、その中で幡谷先生の「源信・法然・親鸞の伝統」という仮名法語の考察に惹かれ、幡谷ゼミに入った。その先生

## 薄井 候

が、学生の間では「鬼の幡谷」なる異名で通っていることを後に知るのだが、真宗をあくまで仏教の歩みの中に確認しようとする先生の思想営為の厳しさによる指導が、学生をしてそう呼ばしめたのであろう。

しかし、その思想営為の厳しさの根底に、常に凡夫としての自覚が貫かれていることを、その後の先生御自身の、そして私自身の愛別離苦のリアリティーを通してつくづく気付かせて頂いたが、後に展開された「大乘至極の真宗」こそ、その先生の仏道を如実に示されているのだ。

### 幡谷 明先生へのコメント



うすい こう  
1976年修了  
修士課程真宗学専攻

### 〔略歴〕

- 一九二八年 島根県に生まれる
- 一九五一年 大谷大学学部卒業
- 一九五五年 大谷大学研究科修了
- 一九六〇年 大谷大学助手
- 一九六二年 大谷大学専任講師
- 一九六四年 大谷大学助教
- 一九七二年 大谷大学教授
- 一九九二年 文学博士
- 一九九四年 大谷大学退職
- 現在 大谷大学名誉教授
- 〔著書〕
- 『親鸞の浄土観』
- 『親鸞教学の思想的探究』
- 『浄土論註』
- 『浄土三経往生文類試解』
- 『曇鸞教学の研究 親鸞教学の思想的基盤』
- 『講座 親鸞の思想5』（共著）
- 他著書・論文多数



## 佐々木教悟前同窓会長（名誉教授）を偲ぶ

前同窓会会長の佐々木教悟名誉教授が昨年九月二十九日にご逝去されました。享年九十歳でした。佐々木教悟先生は、大正四年滋賀県に生まれられ、昭和十二年大谷大学を卒業、同十七年には大谷大学研究科を修了されました。

昭和十八年から二十一年にかけてタイ国仏教文化調査研究のために、バンコクに留学し、上座部仏教およびタイ語の研究に励まれました。我が国としては珍しい分野の研究をされたわけです。

昭和二十四年大谷大学専任講師、同三十五年には教授に就任され、同五十七年文学博士の学位を取得されました。昭和四十一年には学生部長、同四十五年からは短期大学部長、学監・事務局長事務取扱を兼任され、同四十九年から五十一年にかけては学監・文学部長として、当時困難を極めた大学の経営と学生指導に尽力なされました。その他、龍谷大学や天理大学で、



インド仏教、タイ語等の指導にも当たられました。先生の幅広い学識は学界では貴重な存在として他の追随を許さぬものでした。『戒律思想の研究』『仏教史概説』イン

ド篇』等の著書も多く、平成三年には安居本講として「顕浄土真実信文類講讀」の指導もされました。平成元年から同十七年五月まで十七年間にわたって同窓会長として、あらゆる同窓会の会議に出席され全同窓会員の先頭に立ってご指導されました。また真宗大谷学園の会合にも欠かさず出席され、大学と同窓会が共催したIN企画の各地の会合にもほとんど出席されました。先日、ご自坊（愛知川町）のお通夜に伺って予想以上に不便な所で、今まで各種会合に精励されてきたことに改めて感謝しました。また、奥様に先立たれてからも一言も弱音をほくことなく端々と職務を果たしてこられたことも、お人柄を偲ばせます。

平成十三年、同窓会主催のタイ研修旅行には団長として指導され、多くの会員がロープウェイを利用する中、お寺へは自分の足で参るものだとおっしゃったのには、さすがと思わせられました。

（大谷大学同窓会前副会長・富永伸）



## 本部報告



### 二〇〇五年度前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会

二〇〇五年度前期大谷大学・同大学院・大谷大学短期大学の卒業証書並びに学位記授与式が九月三十日（金）に挙行され、式典終了後、本学多目的ホールを会場に「大谷大学卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、学業を修め、新たに同窓会に入会される卒業・修了生を大学と同窓会をあげてお祝いし、

社会人となられた後も、同窓会員として母校に心をかけていただきたいという願いを込めて、毎年三月と九月の二回、卒業証書並びに学位記授与式当日に開催されているものです。当日は、木村宣彰学長、藤島建樹同窓会会長の祝辞の後、同窓会理事長の若槻俊秀教授による乾杯の発声で祝宴が始まり、出席された卒業・修了生は、恩師、そして友だちとなごやかなひと時を過ごされました。

### 同窓会ホームページについて

同窓会では、同窓会ホームページ「無盡燈」を公開しています。

ホームページでは、同窓会からの行事案内や報告、無盡燈ギャラリー、リンク集のほか、「各種証明書・施設利用の申し込み方法のページ」や同窓の皆さんには懐かしい「大学歌・寮歌を聞くページ」を掲載しております。

今後も毎月1日に内容を更新しますので、ぜひ一度、同窓会ホームページ「無盡燈」にアクセスしてください。

ホームページアドレス

<http://www.muji.to-otani.org/>



「出会でピンゴ」景品一覧

品名	提供者
「歓喜」カスタードフルーツざく(6ラズベリー4種x5本セット)	寺林 惇 副会長(大阪市支部)
麦焼酎「しいちご」	等岳 兼昭 常務理事・大分支部長
銘酒「春日山」	二階堂行邦 常務理事(東京支部)
銘酒「立山」	石川 正生 理事・富山支部長
銘酒「賀茂鶴」	加藤 隆昭 理事・広島支部長
銘酒「薄桜」	沙加戸 明 理事(湖南支部)
銘酒「白馬錦」	柴田 達也 理事(信濃学友会支部)
銘酒「豊孟」	
銘酒「八甲田おろし 華想い」	竹園 関 理事・青森支部長
銘酒「駒泉 真心」	
芋焼酎「黒の15」6本セット	中村 高澄 理事・鹿児島支部長
八丁田楽みそ	本田 昭英 理事(三為会支部)
ジャガイモ	吉田 法純 理事(札幌支部)
かぼちゃ焼酎「オニウシ」	三浦 祐伸 函館支部長
地獄ラーメン	曾我 皆達 札幌支部長
玉ねぎ	竹内 亮子 砂川支部長
ジャガイモ・玉ねぎ・かぼちゃ	藤井 亮一 北の国支部長
藍染めテーブルセンター	狐野 利久 室蘭支部長
銘酒「国権」	松岡 満雄 深川支部長
銘酒「国権 鬼ころし」	
「ふくや明太子」	岩城 知行 旭川支部長
銘菓「六花亭詰め合わせ」	鳥宮 慶法 十勝支部長
玉ねぎ(二種類)	金谷 報光 網走支部長
銘菓「大鵬せんべい」	朝日 英明 釧根支部長
タオルケット・シーツ	山崎 伝成 秋田支部長
銘菓「ゼリー詰め合わせ」	
「浅草今半 牛肉しぐれ煮」	松下 晃建 東京支部長
「機山ワイン」2本セット	栗原 宣如 山梨支部長
えのき茸	成田 詮 信濃学友会支部長
銘酒「蓬莱泉」美・和・可3本セット	大音 相瑛 三為会支部長
銘菓「柿羊羹」	佐々木舜峰 大垣支部長
高山ラーメン	
民芸品「さるぼぼ」	小原 正憲 飛騨支部長
飛騨牛	
銘酒「雪中梅」	
銘酒「妙高山」	上越支部
お米「コシヒカリ」	
こも樽酒「加賀鶴」	木越 涉 金沢支部長
銘菓「弁慶ちまき」	遠州 暁 小松支部長
銘酒「常きげん」	但馬 信勝 大聖寺支部長
富有柿	當麻 秀園 奈良支部長
梅干「南龍梅」	鈴木 教雄 和歌山支部長
銘菓「とよす有庵」	
銘菓「いつくせんべい」	木村 毅 播磨支部長
備前焼 花器	發知 正美 岡山支部長
十六味保命酒	窪木 憲祐 福山支部長
讃岐うどん 山田屋	藤井 秀昭 四国支部長
八丈茶	木屋 行範 久留米支部長
ざぼん漬け	有馬 鴻龍 熊本支部長

第十回 ホームカミングデー開催報告

同窓会恒例の「ホームカミングデー」を学園祭期間中の十一月十二日(土)に開催いたしました。十回目を数える今回は、名誉教授の先生方をはじめ、退職された先生や専任教員のご出席のもと、全国より同窓生やそのご家族など約一六〇名の参加がありました。

第一部「谷大で会おう」では、母校博綜館第一会議室をメイン会場に、参加者が久しぶりに再会した恩師や旧友となごやかに懇談されたほか、博綜館屋上において比叡山を背景に記念撮影をしました。

また、当日は「学園祭バザー利用

券」が配付され、参加者は様変わりした母校のキャンパスを散策する際、バザーに参加しながら在学生との交流も図られました。第二部の後半には、世代や地域を越えた同窓生同士の新たな出合いを期待して「出会いピンゴ」が行われ、当選された参加者に全国の同窓会各支部よりご提供いただいた特産品が贈られました。さらに、バザーを利用した参加者の投票により、写真部がバザー優秀団体として選ばれ、翌日の後夜祭において同窓会より表彰されました。その後、京都ロイヤルホテル&SPAに会場を移し、第一部「懇親会」

が開催され、なごやかな雰囲気のか盛会裡に終了いたしました。



比叡山を背景に屋上で記念撮影

支部長・事務局交代のご紹介

ありがとうございました よろしく頼みました

- 網走支部長 金谷 報光 (前支部長 三林 晋)
- 湖南支部長 高木 文善 (前支部長 松本 専成)
- 佐賀支部長 奥村 豊 (前支部長 井手 睦美)
- 尾張学友会支部事務局 佐久間 順敬 (前事務局 高野 法慶)

同窓会学生支援表彰制度 「菩提樹賞」表彰者決定

同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式が、三月十七日(金)、卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会において執り行われ、藤島建樹同窓会会長から本年度表彰者一名に対し、表彰状及び記念品が授与されました。

この制度は、学術・文化・スポーツ、ボランティア活動などの分野で顕著な成績や多大な成果を収め、母校の発展に貢献した学生又は課外活動団体を表彰することにより、学生生活の充実に資することを目的として、本年度より制定されたものです。

本年度「菩提樹賞」表彰者

幸山 聡太(文学部社会学科)

スポーツ分野

体育会サッカー部に所属し、二〇〇五年度関西学生サッカー連盟秋季リーグ 部Aブロックの得点王ならびに大会優秀選手を受賞。





同窓会海外研修 第十弾  
「南インド仏教遺跡研修の旅」  
実施報告

本年一月七日(土)～十六日(月)の十日間にわたり、海外研修第十弾「南インド仏教遺跡研修の旅」を実施いたしました。今回は、本会会長の藤島建樹名誉教授を団長として、各地の同窓会員ならびに有縁の方々総勢十八名の参加がありました。現地では、世界遺産に指定されているアジャンタとエローラの石窟寺院群や龍樹菩薩ゆかりの地ナーガルジュナコンダなどを訪れました。参加された方々は、壮大な遺跡や日本とは全く異なる風景を目の当たりにして、感激されていました。

二〇〇六年度同窓会総会のご案内

開催日 二〇〇六年五月十九日(金)  
時間 午後一時～  
(総会終了後、懇親会)

災害お見舞い申しあげます

昨年九月に全国各地を襲った集中豪雨や台風、また平成十八年豪雪により被害にあわれました関係各位に對しまして、衷心よりお見舞い申しあげます。

南インド研修旅行に参加して

柳原英晶

(二〇〇四年修士課程修了・仏教文化専攻)

本年一月七日から足掛け十日間「南インド仏教遺跡研修の旅」に参加しました。インドには前に釈尊の足跡をたどる北インドに二回行ったことがあり、その時に釈尊に出会えた感じをもちました。

今回は最初にオーランガバードの二大石窟群『アジャンタ』と『エローラ』(ともに世界遺産)を訪れました。そこでたくさん寺院、修道院群とそこにある多数の絵画、彫刻を巡拝しながら見てまわりましたが、スケールの大きさと高度の芸術に圧倒されました。前に見た中国の大同にある雲崗、洛陽にある龍門の二大石窟に比べ勝るとも劣らず、インド独特の宗教遺産に触れた思いがしました。



アジャンタ石窟寺院群 第1窟壁画「蓮華手菩薩像」



エローラ石窟寺院群 第16窟カイラーサナータ寺院の正門

次の訪問地ナーガルジュナコンダの龍樹菩薩像の前では全員で『正信偈』を誦読いたしました。『正信偈』は門徒として毎朝誦読していますが、「釋迦如來楞伽山爲衆告命南天竺、龍樹大士出於世」のところであらためて『正信偈』に親しみを覚えられました。参拝者も多くチベット人が多数きていた、親鸞が称えた七高僧の最初にでてくる龍樹の影響力の大きさに思いを新たにいたしました。続いてピジャヤワダ郊外にある

南インド最大の仏教センターがあった「アマラバティの大仏塔跡」を見学しました。

インド三回目の旅行で今回初めてお腹をこわすなど体調を崩し、チェンナイにあるヒンズー教の海岸寺院『マハバリプラム』(世界遺産)には小生だけが行かれず、残念に思いましたが、最後のコチンで情緒豊かな水郷地帯を「ポートクルーズ」してアラビア海を臨むことができたことや夕刻にケララ州の伝統舞踊「カタカリダンス」や、コチン市内のユダヤ教のシナゴーク、聖フランシスコ教会等を見学できたことで、充実した有意義な研修旅行だったと満足して帰国いたしました。



ナーガルジュナコンダの龍樹菩薩立像前にて(後列右から2人目が本人)

## 母校の動き (2005年9月～2006年3月)

- 2005年  
 9/28(水) [宗祖御命日動行・講話]  
 「臨床教育学」事始 皇 紀夫 本学教授  
 9/30(金) [前期卒業証書並びに学位記授与式]  
 [前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会]  
 10/ 1(土) [博物館2005年度特別展]「ファウスト 伝説と作品」  
 フランクフルト・ゲーテ博物館の名品」[～23(日)]  
 [教育後援会全国父母兄弟懇談会]  
 10/ 7(金)～8(土)  
 [大学院修士課程秋季試験]  
 10/ 7(金) [大学院修士課程社会人試験]  
 10/ 8(土) [文学部第3学年推薦編入学試験[前期日程]]  
 [自己推薦入試[文学部仏教学科]]  
 10/13(木) [開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要]  
 「脳科学からみたことと外部の世界」  
 京都府立医科大学元学長 藤田哲也  
 京都府教育委員会委員長  
 10/20(木) [大谷学会秋季研究発表会]  
 「ベルケソンの形而上学」 鈴木幹雄 本学教授  
 「東北淪陥期文学の一側面」  
 疑遅が描いた「満州国」を中心に」  
 李 青 本学助教授  
 「『遊び』の臨床心理学的意味について」  
 人生の後半に注目して」  
 谷口奈青理 本学助教授  
 「親鸞『観阿弥陀經集註』研究序説」  
 三木彰円 本学専任講師  
 10/25(火) [宗祖御命日動行・講話]  
 「メコン集水域の人と水牛の今」 高井康弘 本学教授  
 10/26(水) [2005年度 教職員を対象とする人権問題学習会]  
 11/ 5(土)～6(日)  
 [指定校推薦入学制度]  
 11/10(木)～13(日)  
 [第105回 紫明祭]  
 10(木)・園遊会<ゲスト>KOKIA  
 12(土)・プロコンサート<ゲスト>DEPAPEPE  
 13(日)・池田秀一・古谷徹トークショー  
 ・宗教シンポジウム  
 テーマ「“生きる”こと 臨床の知から」  
 基調講演 鷲田清一 大阪大学教授  
 皇 紀夫 本学教授  
 11/12(土) [第10回同窓会ホームカミングデー]  
 11/11(金)～12/24(土)  
 [博物館2005年度冬季企画展 京都を学ぶ ]  
 「莊嚴 京の町衆、仏をかざる」  
 [11/11(金)～12/3(土)]  
 [特別陳列]「修復 端坊本『歎異抄』」  
 11/19(土)～21(月)  
 [公募制推薦入試]  
 11/26(土) [大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要・記念講演]  
 「親鸞聖人の文体」 片岡 了 本学名誉教授  
 12/ 2(金)～3(土)  
 [教育後援会中国地区父母兄弟懇談会]  
 [同窓会中国地区支部長会]  
 12/ 3(土)～9(金)  
 [2005年度 第2回“人権問題を共に考えよう”  
 全学学習会]  
 「戦争と人権」原爆写真パネル展『原爆と峠三吉の詩』  
 7(水) 爆心地付近からの奇跡の生還者  
 米澤 鐵志(京都府原爆被災者の会宇治支部役員)  
 「“核”と人類は共存できない 被爆者の思い」  
 12/ 3(土) [第2回 留学生文化交流会]  
 12/17(土) [文学部第3学年推薦編入学試験[後期日程]]  
 [外国人留学生入試]  
 12/18(日) [短期大学部幼児教育科 フェスティバル幼教'05]  
 2006年  
 1/ 7(土)～16(月)  
 [同窓会海外研修旅行]  
 「南インド仏教遺跡研修の旅」  
 2/ 2(木) [第3回留学生文化交流会]  
 2/ 4(土)～7(火)  
 [一般入試[第1期]]  
 2/27(月)～28(火)  
 [大学院春季入学試験]  
 2/28(火) [文学部第3学年一般編入学試験]  
 3/ 7(金) [一般入試[第2期]]  
 3/17(金) [卒業証書並びに学位記授与式]  
 [卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会]

### 大谷大学博物館2006年度開館予定

#### 春季企画展

「大谷大学のあゆみ  
赤レンガの学舎」  
4月4日(水)～4月22日(土)

#### 夏季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化」  
5月23日(火)～8月6日(日)

#### 秋季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化」  
9月12日(火)～9月30日(土)

#### 特別展

「鈴木大拙没後四十年記念展  
大拙 その人と学問」(仮)

10月10日(火)～11月28日(火)

#### 冬季企画展

「京都を学ぶ」  
12月5日(火)～12月23日(土・祝)

企画展、特別展とも原則として月曜日・日曜日・祝日は休館ですが、場合によっては開館することもあります。日程等詳細につきましては、大学HPをご覧ください。か博物館へご確認ください。

TEL: 075-411-8483 (直通)

採用  
「事務系嘱託」  
松井 真琴(入学センター)  
二〇〇五年十月一日付

「事務系嘱託」  
俣野 知子(教育研究支援部)  
二〇〇五年十二月三十一日付

「事務職員」  
尾崎 正治(教育研究支援部)  
二〇〇六年一月三十一日付

「教育職員」  
村井 英雄(教授・文学部)  
二〇〇五年八月七日付

#### 人事

#### 退職

# 母校だより



廣瀬幸市専任講師

二〇〇五年七月、本学の廣瀬幸市専任講師が、京都大学から学位論文「意識・存在フィールドについての心理臨床学的考察 イメージによらない心理療法的理解」により、博士(教育学)の学位を取得されました。

廣瀬幸市専任講師が、博士(教育学)の学位を取得



同窓生の小栗栖健治さん、橋本章彦さんが、博士（文学）の学位を取得

二〇〇六年二月十三日（月）、本学同窓生の小栗栖健治（一九七九年修士課程修了）さんが、学位論文「宮座祭祀の史的研究」により、同じく橋本章彦（一九九三年博士後期課程満期退学）さんが、「毘沙門天信仰の説話学的研究 日本の展開の諸相」により、本学から博士（文学）の学位が授与されました。



小栗栖健治氏



橋本章彦氏

本学卒業生二名が滋賀県文化賞等を受賞

二〇〇五年十一月十日（木）、本学卒業生の高橋正隆（一九五三年学

部卒業、元本学教授）さんが第三十回滋賀県文化賞を、同じく中澤成晃（一九五八年修士課程修了）さんが第三十回滋賀県文化功労賞を受賞されました。

高橋さんは、和紙の文化に精通し、桂離宮昭和大修理に際して多くの職人を指導し失われた技術を再現されたほか、滋賀県文化財保護審議会委員として、文化財学習や文化財保護を通じ、郷土文化の振興に寄与されたことなどが高く評価され、今回の受賞となりました。

また、中澤さんは、一年の多幸を祈り、村内の安全や五穀豊穡を祈願する春迎えの伝統行事である「オコナイ」研究の第一人者として高い評価を得ておられます。また、永年にわたり滋賀県や長浜市などの文化財保護審議会委員を務められ、民俗文化財の保護など多大な功績を残された今回の受賞となりました。



高橋正隆氏



中澤成晃氏

同窓高校教員懇談会開催

去る八月八日に同窓高校教員懇談会を、博綜館第二会議室において開催いたしました。この会は、大谷大を卒業し、現在高等学校で教鞭をとっておられる先生方から、高等学校の現状をお話しいただくとともに、母校である本学の今後のあり方を共に考え、連携をより緊密なものとしていくことを目的にして開催しています。今年度は十六名の先生方を迎え、懇談会では、在学生・卒業生へのバックアップ、入学制度や学生募集のあり方など、今後の大谷大学の方向を見定めていくうえでの貴重なご意見を多数いただくことができました。



懇談会の様子

特別展「ファウスト 伝説と作品 フランクフルト・ゲート博物館の名品」開催

特別展「ファウスト 伝説と作品 フランクフルト・ゲート博物館の名品」を十月一日（土）より二十三日（日）まで開催しました。また一般公開に先立ち九月三十日（金）には、ドイツ連邦共和国総領事館副領事のアンニャ・ハーター氏、フランクフルト・ゲート博物館部長のペトラ・マイサク氏など多くの来賓を迎えオープニングセレモニーが挙行されました。

本展覧会は、「日本におけるドイツ年」の協賛企画として、フランクフルト・ゲート博物館との共催で、ドイツの偉大な詩人ゲーテの代表作『ファウスト』を取り上げ、その成立過程と背景、および第一部のストーリーをフランクフルト・ゲート博物館の名品によって紹介したものです。出品作品には、ゲート直筆の原



アンニャ・ハーター氏挨拶



稿やペン画、シュールト直筆の楽譜など、その多くは日本初公開となる大変貴重なもので、今後、公開予定のない作品も含まれるなど、内外で注目を浴びました。

今回の展示では、はじめてすべて他館、しかも海外からの出品で、その内容もこれまでとはまったく異なるものとなっています。その意味で開館三年目を迎えた博物館にとって、今後の一層の飛躍を意識した大きな試みでもありました。

会期中には記念講演会と記念コンサートが開催され、また学内食堂ではドイツフェアとしてドイツ料理が出され、いずれの関連イベントも大変ご好評をいただきました。

三週間という短期間の会期ではありましたが、三三〇〇人を超える、たくさんの方の来館者で会場はにぎわい、盛況のうちに会期を終えることができました。  
(宮崎健司)

「全国父母兄弟懇談会」開催

大谷大学教育後援会では、大谷大学・大谷大学短期大学部在学生の父母兄弟を対象に、毎年全国の数地区の都市において父母兄弟懇談会を開催しています。今年度は、静岡地区（静岡）、九州地区（大分・福岡）、中国地区（山口・広島）の三地区五会場で開催しました。

今年度はそれらに加え、去る十月一日（土）、本学を会場に全在学生の父母兄弟を対象とした「全国父母兄弟懇談会」を約三二〇名の父母兄弟を迎えて開催しました。

第部の全体会では、佐藤亨教育後援会会長、木村宣彰学長の挨拶の後、引き続き大学の現況報告が行われ、本学に対するご理解を一層深めていただきました。その後、個別相談会ならびに響流館を中心とした学内施設見学があり、個別相談会では、博綜館五階会議室において、学科・成績・進級・進路・就職、海外留学、学生生活、よろず相談の各コーナーを設置し、参加された父母兄弟から多くの相談が寄せられました。

また、第部の懇親会は会場を京都ホテルオークラに移し、約九〇名の教職員の出席を得て、父母兄弟とのなごやかな懇談の場として有意義なひとときを過ごしました。

第一〇四回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙げる

十月十三日（木）、第一〇四回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要が挙行されました。十月十三日を開学の日とするのは、近代的大学として出発した一九〇一（明治三十四）年の開校式が挙行された日によります。

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者の表彰と記念講演が執り行われました。今年度勤続三十年を迎えられた教育職員の築山修道教授に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、元京都府立医科大学学長で、現京都府教育委員会委員長の藤田哲也氏より「脳科学からみたこころと外部の世界」と題して講演をいただきました。



藤田哲也氏

文藝学会機関誌「文藝論叢」第十五回「蘆北賞」受賞

本学国文学・中国文学両学会は合同して大谷大学文藝学会を設立し、三十数年間研究活動を継続してきましたが、この度、財団法人橋本循記念会より「中国文学に関する学術研究」に対する助成対象として、本会の機関誌「大谷大学文藝論叢」が第十五回「蘆北賞」として表彰されることになり、去る十一月十七日（木）午後五時よりの式典で、授与されました。因みに、本財団は、中国文学研究の碩学であった立命館大学名誉

教授橋本循博士の遺徳を偲び、その遺志を継承して中国を中心として東アジアの学術文化の発展に寄与したいとの博士ご令室の申し出による寄附を基金として一九八九年十二月に設立されました。爾来中国文学研究の振興発展に寄与すべく、論文・学術誌・著書部門の優れた研究成果に対し、研究助成を行ってきましたが、本年度の「学術誌」部門において本学の機関誌「文藝論叢」が選考委員会により選定され、橋本博士の雅号を被せた「蘆北賞」受賞の榮譽に浴したのであります。願れば一九七三年九月初刊号より本年九月の第六十五号最新号に至る不断の研究の結実として、この度の受賞を、ご苦勞頂いた先学諸氏と慶ぶと共に、更なる発展に向けて進一歩せよとの激励として受け止めることです。  
(若槻俊秀)



受賞式の様子

冬季企画展 京都を学ぶ「荘厳 京の町衆、  
仏をかざる」開催

博物館では、十一月十一日(金)から十二月二十四日(土)まで冬季企画展「京都を学ぶ「荘厳 京の町衆、仏をかざる」を開催しました。この展覧会では、浄土真宗における荘厳、特に京の町衆・神田家に伝えられた打敷に注目しました。神田家は江戸時代から続く家柄で、両替商として繁栄し、近世京都の発展に寄与してきました。一方、篤信の真宗門徒でもあり、報恩講や年忌法要には様々な文様の打敷が制作されました。今から二〇〇年ほど前に作られた打敷ですが、非常に状態がよく、来館された方々は興味深く観覧しておられました。

また年記のある『歎異抄』としては最も古い端坊本『歎異抄』の修復を記念して、特別に陳列しました。この端坊本『歎異抄』はホームペー



展示された「打敷」

ジでも公開しています。

<http://www.otani.ac.jp/tannisyo/index.html>

### 宗教シンポジウム開催

「生きること 臨床の知から」を総合テーマにして二十四回目の宗教シンポジウムが、第一〇五回紫明祭最終日の昨年十一月十三日(日)、十三時三十分よりメディアホールで開催されました。

第一部では臨床哲学が専門の鷲田清一大阪大学教授から「分らないことの大切さ」、臨床教育学が専門の皇紀夫本学教授からは「新しさとしての日常」と題した基調講演が行われました。

第二部では基調講演に基づき、本学教職員、学生、一般来聴者などホール満席の来聴者と熱心なディスカッションが行われ、医療や教育の現場の「知」から本場に「生きること」とは何かを考えることができ、大変有意義なシンポジウムとなりました。



ディスカッションの様子

### 大学報恩講厳修

十一月二十六日(土)、午前十時より講堂において、学内外から多数参集のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が挙行されました。

宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、学長の調声により『正信偈』を全員で唱和して報恩講を厳修した後、引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓、教職員、学生が焼香を行いました。また、本年からの新しい試みとして、学長の導師のもと、助音の職員に加え、学生代表六名が出仕する形式をとり、全学挙げての法要となりました。

法要終了後は、片岡了名誉教授より「親鸞聖人の文体」と題する記念講演が行われました。親鸞聖人の著作に見られる比喩的表現について、具体的な例をあげながらその特色について詳細に解説をいただきました。その後、学内食堂にて小豆粥のお齋を全員でいただきました。



片岡了名誉教授

### 教育振興資金(募金)について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金を行っています。

二〇〇五年七月十六日から二〇〇六年二月十五日までの間に「ご寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。」

ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

件数 一三六件

寄付金総額 一〇,七〇〇,〇〇〇円

#### 教育振興資金寄付者(敬称略)

浅野 剛	足利 芳文	天野 義敬
荒瀬原有之	安藤 信詮	池山 眞一
砂 俊路	石黒 健二	石嶋 巖
和泉 治男	井田 和美	伊藤 啓
稲葉 是邦	井上 俊雄	入野 宣親
岩田 常照	上田 裕嗣	宇都良正悟
海老沼博昭	大石 秋雄	大久保美和子
大橋 義孝	大原 正寛	岡田 文雄
小川 幸司	奥田 祐賢	奥林 暁
尾崎 茂	長村 秀男	小野 一司
加藤 司	金井 淳	金濱はるゑ
上林 亮一	正孝 淳	川端 章夫
木越 祐馨	木全 和博	清澤 善
草野佳代子	楠 幹夫	窪澤 真一
熊谷 法昭	栗原 宣如	香城 悦子
越谷 彰元	小島 照行	小林 一博
小松 昭夫	小松 俊照	後屋敷 修
今渡 公男	斎藤 明聖	齊藤 浄文
斎藤 秀幸	西藤 真	佐々木弘英
佐藤 淳	佐藤 照信	佐藤 保志



二〇〇五年度秋季課外活動結果

【団体成績】

- 卓球部(男子) 関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 部Bリーグ 六敗 六位 部入替戦 部降格
- 卓球部(女子) 関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 部Aリーグ 四勝一敗 二位
- サッカー部 関西学生サッカー連盟秋季リーグ 部Aブロック 四勝五敗 六位
- 硬式野球部 京滋大学野球連盟秋季リーグ戦 部 六勝七敗 三位
- 剣道部(男子) 関西学生剣道優勝大会 二回戦敗退
- バスケットボール部(男子) 関西学生バスケットボール連盟 秋季リーグ戦 部Bリーグ 六勝十敗 八位
- バスケットボール部(女子) 関西女子学生バスケットボール連盟 秋季リーグ戦 部 三勝四敗
- 関西女子学生バスケットボール連盟 秋季トーナメント大会 二回戦敗退
- ソフトテニス部(男子) 関西学生ソフトテニス連盟 秋季リーグ戦 V部Bクラス 三敗 四位 Cクラス降格
- ソフトテニス部(女子) 関西学生ソフトテニス連盟

秋季リーグ戦 V部Dクラス

- 一勝二敗 三位
- バドミントン部(男子) 関西学生バドミントン連盟 秋季リーグ戦 部Aブロック 三勝二敗 三位
- バドミントン部(女子) 関西学生バドミントン連盟 秋季リーグ戦 部Aブロック 五勝 一位
- 部入替戦 部昇格
- バレーボール部(男子) 関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 部 一勝六敗 七位
- 部入替戦 部降格
- バレーボール部(女子) 関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 部 四勝三敗 四位
- ラクロス部 関西学生ラクロスリーグ戦 部Aブロック 三敗 四位
- アメリカンフットボール同好会 関西学生アメリカンフットボール連盟 秋季リーグ戦 部Cブロック 五敗 六位
- 空手道部 第二十一回 綴喜空手競技大会 [形 高校生・一般の部] 第三位 岡崎 里紗
- 第三位 岡崎 里紗
- (文学部史学科 第三学年) [組手 高校生・一般(男子)の部] 準優勝 中野 悠介

(文学部社会科学 第二学年)

- [組手 一般(女子)の部] 優勝 岡崎 里紗
- (文学部史学科 第三学年) 準優勝 松尾 弥生
- (文学部文学科 第二学年) サッカー部
- 関西学生サッカー連盟秋季リーグ [II部Aブロック] 得点王・優秀選手 幸山 聡太
- (文学部社会科学 第四学年) 硬式野球部
- 京滋大学野球連盟 部秋季リーグ戦 [ベストナイン] 外野手 馬場 啓太
- (文学部人文情報学科 第二学年) 指名打者 川戸 雅俊
- (文学部仏教学科 第二学年) 打撃ベストテン 第九位 川口 潤
- (文学部仏教学科 第三学年) 第十位 馬場 啓太
- (文学部人文情報学科 第二学年) スキー競技部 第十四回全日本選抜ローラーズ キーあわくら大会
- [成年女子] 優勝 内畑 加容子
- (文学部史学科 第三学年) バドミントン部
- 京都学生バドミントン選手権大会 [女子Bシングルクラス] 優勝 福田 夏菜
- (文学部人文情報学科 第三学年) 京都学生バドミントンクラス別大会

佐野 俊導	佐用裕美子	等岳 文英
柴田 敬雄	島 仲	島津 知道
白城 壽一	末永 等	菅沢 兼一
瀬尾 信博	高田 一敏	武田 兼一
武田 秀之	立島 了	田中 圭悟
田中 富男	田中 正博	谷井 圭一
谷尾 弘道	田村 常晃	茶堂 寛明
傳 敏男	網本 奉弘	暉 了
遠島 芳然	豊田 壽	永井 俊男
中居 詳往	中根 崇	中村 繁
鍋山 清一	難波 明則	難波美千子
西田 勇	西山 雄二	新田 春岳
新田 勝	長谷川和彦	長谷川一也
服部 正	羽鳥東一郎	羽部 大仁
濱崎 晃志	林 伸人	広瀬 清志
福井 修	福井 憲雄	福田 吉充
藤内 和光	藤野 久夫	藤原真利子
藤原 芳廣	星野 裕峰	本多 卓寛
前田 尚哉	松井 邦義	松本 政枝
松山 隆	水川 義人	三村 祐平
村上 友彦	室 憲人	守城 照信
森野 信夫	藪内 悟	山浦 芳光
山代 英世	山田 充	山元 孝平
榎葉 智章	吉田 和良	藪仲 秀之
吉村 年弘	渡辺 健生	
京都中央信用金庫		

【女子シングルBクラス】

- ・準優勝 東 なつき
- (文学部哲学科 第一学年) [女子ダブルスAクラス] 第三位
- 植村 佳奈
- (文学部史学科 第二学年) 庄島 舞子
- (文学部哲学科 第二学年) [男子シングルAクラス] 準優勝 湊 一真
- (短期大学部文化学科 第一学年)

# 2006年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、21世紀をいかに生きるかをテーマとする最先端講座、京都の文化の奥深さを知る講座と切り口は多様で、そこには常にひとのこころが流れています。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

## 開放セミナーのご案内

1	テーマ	声吼(しょうみょう)とは何か
	担当講師	岩田宗一(大谷大学名誉教授)
	開講日	6月29日、7月6日、13日、20日、27日、8月3日 いずれも木曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	6月22日(木)当日消印有効	

2	テーマ	モンゴルの歴史と文化 アジアに行く チングスハン即位800年を記念して
	担当講師	松川節(大谷大学助教授)ほか
	開講日	5月16日、23日、30日、6月6日、13日 いずれも火曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	5月9日(火)当日消印有効	

3	テーマ	男が書く女の手紙 リチャードソンとジッドの作品から
	担当講師	村瀬順子(大谷大学教授)/小坂美樹(大谷大学非常勤講師)
	開講日	5月10日、6月14日、28日、7月5日、7月12日、26日 いずれも水曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	4月28日(金)当日消印有効	

4	テーマ	難波の恋の物語 『冥途の飛脚』の世界に遊ぶ
	担当講師	沙加戸弘(大谷大学教授)
	開講日	4月27日、5月18日、25日、6月8日、15日、22日 いずれも木曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	4月20日(木)当日消印有効	

## 紫明講座のご案内

1	テーマ	法然と親鸞の出会い 歎異抄に学ぶ
	担当講師	安富信哉(大谷大学教授)
	開講日	5月24日、31日、6月7日 いずれも水曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	5月17日(水)当日消印有効	

2	テーマ	体験的アメリカ論 州立大学・日本人学校・刑務所から見た米国社会
	担当講師	古川哲史(大谷大学講師)
	開講日	7月7日、14日、21日 いずれも金曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	6月30日(金)当日消印有効	

3	テーマ	信仰は倫理的か キェルケゴールの哲学を読む
	担当講師	藤枝真(大谷大学講師)
	開講日	7月4日、11日、18日 いずれも火曜日
	開講時間	17:50～19:20
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	6月27日(火)当日消印有効	

4	テーマ	仏像彫刻のこころとかたち 文化財修理の立場から
	担当講師	藤本青一(財団法人美術院国宝修理所所長)
	開講日	6月10日、17日 いずれも土曜日
	開講時間	14:00～15:30
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	2,000円(税込)
申込締切	5月29日(月)当日消印有効	

### 【申し込み方法】

詳細を記したパンフレットをご希望の方は、『生涯学習講座案内希望』と明記の上、ハガキ、ファックス、Eメールいずれかの方法にて、下記までお申し込みください。

### 【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162

E-mail opensemi@sec.otani.ac.jp

\*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

## 本学教員の出版物紹介

- 『いのちみな生きらるべし』 中川皓三郎 著(真宗大谷派宗務所出版部) (二〇〇五・三) 七七頁
- 『さぬき市の文化財』no.2 豊島 修 分担執筆(さぬき市文化財保護協会) (二〇〇五・三) 一八頁
- 『文化人類学入門 古典と現代をつなぐ二〇〇モジュール』 山下晋司 編著 田辺繁治 分担執筆 (弘文堂)(二〇〇五・四) 二八四頁
- 『親鸞聖人の信念 野に立つ仏者』 寺川俊昭 著(法蔵館) (二〇〇五・六) 一一二頁
- 『正像未和讃を読む 悲泣にはじまる伝道』 木越 康 著(真宗大谷派大阪教務所) (二〇〇五・六) 二八一頁
- 『往生浄土』といふこと 小川一乗 著(法蔵館) (二〇〇五・七) 四九頁
- 『ブダのターミナルケア』 吉元信行 著(法蔵館) (二〇〇五・八) 一四七頁
- 『韓国の歴史と安東権氏』 鄭 早苗 著(新幹社) (二〇〇五・八) 五一〇頁
- 『ツォンカバ 菩提道次第大論の研究』 白館戒誓・藤仲孝司 共訳(文栄堂) (二〇〇五・九) 四六六頁
- 『中国の歴史 二 日本にとって中国とは何か』 彌波 謙 共編著(講談社) (二〇〇五・一一) 四〇六頁
- 『頼富本宏博士還暦記念論文集 マンダラの諸相と文化 金剛界の巻 胎蔵界の巻』 頼富本宏博士還暦記念論文集刊行会 編 (佐々木令信・吉元信行 分担執筆)(法蔵館) (二〇〇五・一一)
- 『金剛界の巻 二〇二頁 胎蔵界の巻 八六一頁』 続 清沢満之と歎異抄 延塚知道 著(文栄堂) (二〇〇五・一二) 八六頁



坂本弘名譽教授を偲ぶ

本学名誉教授坂本弘先生が二〇〇五年九月十九日にご逝去されました。享年九十二歳でした。

坂本先生は一九三六年三月に本学学部宗教学専攻をご卒業になり、一九四二年三月に本学研究科を修了されると同時に、研究室助手に任ぜられました。そして先生は、一九五四年四月に本学教授に命ぜられ、一九七九年三月に定年退職されるまで、図書館長、学監・文学部長、大学院文学研究科長など多くの要職を歴任され、大谷大学のために多大なご尽力をくださいました。



とくに、一九四九年から三十年間、本学哲学科宗教学専攻のゼミを恩師鈴木大拙先生の後任として担当されたのです。その間、多くの学生が先生の教えを受け本学を巣立っていききましたが、先生の教育・研究の指導方針は一面では厳正さを、他面においては各人の自主性を尊重し、人格的自立を促す

ことを宗とされていたように思われます。また、先生ご自身は「些事にこだわらない、自由闊達で高貴な創造的精神」を愛され、自らの生き方として求めてこられました。とくに縁有つて本学に学んだ卒業生に対してはそのような人生态度を心底から願つておられたようです。

先生は本学では宗教体験の諸相と意義、宗教的実存思想、神秘主義、浄土教思想、鈴木大拙先生の仏教・禅思想などを中心に授業をされたのですが、ご自身の研究領域においてもそれと軌を一にしておられました。主著・主要論文としては「禅学への道」(翻訳)、「名への古代的信仰」、「エツクハルトの神秘主義における中心問題」、「鈴木大拙と神秘思想」など、その他英訳のお仕事が多数あります。

長年、先生のご指導に与る中で、先生についての忘れ得ぬ強い印象が一つあります。それは、先生の恩師鈴木大拙先生に対する絶対的な信頼と敬愛、しかも坂本先生の大拙先生との最初の出会いから存在したということです。師弟の境遇とは本来このようなものかとも教示されました。

最後に、「坂本弘先生、ありがとうございました。と心底より申し上げるばかりです。」

本学教授・短期大学部長

築山修道

村井英雄教授を偲ぶ

文学科国文学分野教授・村井英雄先生は、闘病のまいなく昨年八月七日、脳内出血のため六十一歳で急逝された。あまりにも突然のご逝去であり、ただ驚き悲しむばかりである。

先生は二十七年間、毎日新聞社に勤務され、京都・福井・奈良支局を経て、学芸部で文学を担当され、後に学芸部編集委員・編集部編集委員を務められた。その後、一九九六年四月に本学文学部助教授として就任され、近代文学を担当いただいた。

先生のご研究は幅が広く、代表的なものは高橋和巳と司馬遼太郎の研究である。ご著書は『闇を抱きて高橋和巳の晩年』、『書誌的・高橋和巳』、『日本を知る・司馬遼太郎』など多数ある。

先生は、常に近代文学研究の厳しさを口にされ、懇切に指導された。卒業論文の試問の席では、根拠のない論について「この部分は



一体本文のどこに拠っているのか」と厳しく注意された。

先生の「歯に衣着せぬ」ご指導は痛快であった。本学に着任されて間もないころ、百人を超える講義の教室で私語をやめない受講生に対して「君らは大学生か、おれは子守にきてるのちがうぞ」と一喝され、その後は学生に「怖い先生」と一目置かれたということである。学生からは「厳しいが、親身になって指導してくださる先生」として信頼されていた。

先生は一昨年秋季体調を悪くされた。昨年一月頃になって癌と診断されて、一月中旬に入院された。治療に専念された結果、非常に早く回復され、夏休み直前まで毎週火曜日に出勤され、近代文学ゼミの授業を担当された。後期も是非ゼミコマだけは授業したいと願つておられた先生のお気持ちを感じると残念でならない。無常の習いは世の常とはいふものの哀惜の念を禁じえない。

十年間近く本学で指導くださり、常に愛情をもって学生に接してくださった先生に感謝申し上げます。

本学教授 石橋義秀

# 同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

## 恩師を囲んで



昭和35年卒業多屋ゼミ同期会  
(2005.8.1~3)  
青山常紹氏幹事のもと隠岐島にて  
開催。来年は外松俊成氏(本多)  
の南信州を約す。

小川一乗ゼミ同窓会  
(2005.9.10)  
小川一乗先生のご退職の記念  
に、ゼミ卒業生、寮監時代の  
寮生をはじめ有縁の方々にご  
賛同いただき肖像画をお贈り  
することができました。



「小川一乗先生像」  
平成17年9月 73×60.5cm  
親鸞こそが釈尊の大乗仏教の本質  
と説かれる小川一乗先生を大無量  
寿経を説かれた「靈鷲山」から見  
える風景を背景として描かせてい  
たきました。  
畠中光享 九拜



櫻部先生の傘寿を祝う会  
(2005.9.9~10)  
櫻部建先生のお祝いを記念して櫻部ゼミの  
仲間が集まりました。先生のお  
住まいの三河吉良温泉に、  
先生の奥様、櫻部先生と交友  
の深かった白土わか先生をは  
じめ、縁ある方が集いました。  
先生の厳しい薫陶を受けし子  
弟が、それぞれの地で活躍。  
懐かしくも楽しい一時でした。  
先生のご長寿を念じて、再会  
を！合掌



矢野ゼミ同窓会(2004年卒業)(2005.9.10)  
卒業から約1年半...。久しぶりに皆で楽しく過ごす  
ことができました。また、集まりましょう。

## 光明祐寛さんが「第21回暁烏敏賞」を受賞

昨年10月、光明祐寛(1968年3月 修士課程  
修了)さんが、論文「ありのまま・そのまま  
の生き方 - 幾多郎・大拙・啓治の自然法  
爾 - 」により第21回暁烏敏賞(石川県白山市  
主催)を受賞されました。

この賞は、明治時代に本学を卒業し、近代  
的な哲学思想を広め、20世紀前半の精神文化  
界に大きな影響を与えた暁烏敏氏の優れた功  
績をたたえるとともに、伝統文化の継承発展  
と青少年の健全育成を願って、昭和60年に制  
定されたものです。



大谷大学陸上競技部創部80周年記念総会(2005.9.3)  
陸上部80周年です。多くのOBの熱いメッセージで盛り上がった会でした。







大谷大学育英寮（昭和30年4月入寮）入寮者の集い（2005.9.29）  
寮での出会いから50年があつという間に過ぎ去り、3回目の集いも母校に10名が参集し、同僚生等の追弔会や交歓会を行った。この後、懇親会を東山高台寺の「閑人」で開き、親交を深め充実した時を過ごし、再会を約した。



混声合唱団OB総会（2005.9.18）  
9月18日、恒例のOB総会を開催。来年度のOB合同ステージに向けて積極的な意見交換がされました。望まれていた谷混OB会ホームページができました。アドレスは、<http://ob.tanikon.com/>です。



洗心四八会（2005.10.7）  
昭和48年の入寮以来、初めて同期会を開きました。当時の寮監さんは今、学長。紅顔の美少年たちは、紅顔むなしく変じて...



2005年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会並びに卓球大会（2005.10.8～9）  
年1回のOB・OG会を開催いたしました。初日は総会を、2日目は現役をまじえての卓球大会を行いました。なつかしい話と新しい出会い。また卓球部の年輪が1つ増えたように感じました。

文学部・大学院仏教文化 国文学会同窓会（2005.10.8）  
村上學先生の講演をお聞きし、卒業生・教員一同記念写真を撮影し、その後、平安会館で懇親会を行った。

天野ゼミ同窓会（2005年卒業）（2005.9.10）  
天野勝重先生にも参加していただき、みんなの近況を話し合ったり楽しい時間を過ごせました。これからも開いていきたいと思います。

直心行射会・OB総会・懇親会（2005.10.8）  
10月8日に、毎年恒例のOB会が行われました。来年は弓道部再開40周年です。直心道場有縁の方々の大いなる御参集を。

大庭米治郎・岸繁一先生追憶会（2005.10.20）  
「日本におけるドイツ年2005 / 2006」を記念して、昨年10月1日より23日まで、フランクフルト・ゲーテ博物館所蔵の貴重なオリジナル名品100点余りを集めた「ファウスト展」が大谷大学博物館において開催された。この意義深い展示会にあわせ、10月20日午後3時より、ゲーテ研究をもって本学のドイツ文学の伝統を築き発展させてくださった大庭米治郎先生と岸繁一先生の法要が、元宗務総長の細川信元師を導師として、専源講堂において営まれた。その後20名の参加者は、博物館の展覧会場を訪れ、先ず大庭先生の、細かな字で一杯書き込みのされた『ファウスト』の書物に大きな感動を以て再会し、それから貴重な展覧品の数々を見て回り、最後に、場所を移しての恩師の遺徳を偲ぶ追憶会を以て、この日の会を閉じられた。



笑いの学校落語研究会OB会  
創部35周年記念寄席（2005.11.12）  
紫明祭期間中の11月12日に、大谷大学内で「35周年記念寄席」を、その後、さざんか亭にて「創部35周年OB・OG会」を開催いたしました。次は40周年記念で集まりましょう！



卒寮アルバム完成記念会  
（1999年度自灯学寮入寮生同期会）（2005.11.12）  
卒寮してから6年の歳月を経て、ついに卒寮アルバムが完成しました。みんなで埋めたタイムカプセルをひらいたような気分です。





第29期大谷大学バレーボール部OB・OG会  
(2005.11.23)

急遽の開催ながら、現役の多大な協力にて、例年どおり対抗戦まで開催できました。役員も若返りますので、次回は皆さん新体育館に足をお運びください。

谷雪会総会

(2005.11.19)

紅葉シーズンの中、会長はじめ若手OBら22名の出席で総会を開催。久々に同好の熱き思いを語り、現役学生達にエールを送りました。



2005年卒業寺林ゼミ同期会 (2005.11.26)

戸江君の働いているデンパーロッジというお店で同期会を開催しました。そこで僕らが見たのは、店を一人でもかされテキパキと働いている"出来る男"に成長した戸江君の姿でした。ゼミの仲間達は皆元気で、それぞれ頑張っているようで、今している仕事の話や将来の話など、色々な話が盛り上がり、同期会は大成功でした。



暁鐘十四会 第24回例会  
(2005.11.25~26)

年とともに参加は少なくなるが、物故者(48名)は今年も参加。気分は既に大学生。話尽きない京都平安会館の一夜。翌朝は大学で謝徳の報恩講。心気満点。更に若返る。



長崎法潤博士古稀記念祝賀会 (2005.11.26)

長崎法潤先生の古稀と記念論集『仏教とジャイナ教』の出版をお祝いして祝賀会を開催しました。当日は論集執筆者、長崎先生の門下生など多くの参加者があり、盛会でした。



藤島ゼミ同窓会 (2002年卒業)  
(2005.12.10)

久々に集まることが出来て良かったです。今後も、年に1度はこのような場を設けたいと思います。



昭和42年度広瀬ゼミ同期生の会 (2005.12.12~13)

卒業後初の会合。4名の参加にて物故者追悼法要後、懇親会。指導教員はじめ同期生に電話しまくり。元気な声もいいが、顔が見えなくて残念。



同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2005. 8. 1 (月)	昭和35年卒業多摩ゼミ同期会
2005. 9. 3 (土)	大谷大学陸上競技部創部80周年記念総会
2005. 9. 9 (金)	櫻部先生の傘寿を祝う会
2005. 9.10 (土)	小川一乗ゼミ同窓会
2005. 9.10 (土)	天野ゼミ同窓会(2005年卒業)
2005. 9.10 (土)	矢野ゼミ同窓会(2004年卒業)
2005. 9.18 (日)	混声合唱団OB総会
2005. 9.28 (水)	村井英雄先生を偲ぶ会
2005. 9.29 (木)	大谷大学育英寮(昭和30年4月入寮)入寮者の集い
2005.10. 7 (金)	洗心四八会
2005.10. 8 (土)	文学部・大学院仏教文化 国文学会同窓会
2005.10. 8 (土)	直心行射会・OB総会・懇親会
2005.10. 8 (土)	2005年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会並びに卓球大会
2005.10.20 (木)	大庭米治郎・岸繁一先生追徳会
2005.11.12 (土)	笑いの学校落語研究会OB会 創部35周年記念寄席
2005.11.12 (土)	卒業アルバム完成記念会(1999年度自灯学寮入寮生同期会)
2005.11.19 (土)	谷雪会総会
2005.11.22 (火)	浦山ゼミ同窓会(2004年卒業)
2005.11.23 (水)	第29期大谷大学バレーボール部OB・OG会
2005.11.25 (金)	暁鐘十四会 第24回例会
2005.11.26 (土)	長崎法潤博士古稀記念祝賀会
2005.11.26 (土)	2005年卒業寺林ゼミ同期会
2005.12.10 (土)	藤島ゼミ同窓会(2002年卒業)
2005.12.12 (月)	昭和42年度広瀬ゼミ同期生の会
2005.12.16 (金)	ギター部OB演奏会
2006. 1.14 (土)	岡崎ゼミ同窓会(2003・2005年卒業)
2006. 1.15 (日)	大和ゼミ大集合同窓会
2006. 1.21 (土)	1986年卒業大桑ゼミ同期会
2006. 2.17 (金)	石橋ゼミ2004年度卒業生・現4回生合同コンパ
2006. 2.23 (木)	育英寮(昭和35年度在寮)同期会



岡崎ゼミ同窓会  
(2003・2005年卒業)  
(2006.1.14)  
卒業して10カ月。みんな相変わらず元気で保育士をしていました。先輩方も来てくださり、岡崎ゼミらしくわいわい語り合いました



大和ゼミ大集合同窓会(2006.1.15)  
大和先生のご退職されるということで、同窓会を開催しました。先生を囲んで、保育現場での感動体験や悩み事などを話し、楽しいひと時を過ごしました。



1986年卒業  
大桑ゼミ同期会  
(2006.1.21)  
大桑先生を囲んで、歴史のロマンを熱く語り合いました。次回は来年1月20日・21日カニツアーで決定です。是非！ご参加まっまーす。



石橋ゼミ2004年度卒業生・現4回生合同コンパ(2006.2.17)  
卒業生8人、4回生5人が集まり、楽しいひと時を過ごすことができました。これからも、年に一度は開いていきたいと思ひます。

育英寮(昭和35年度在寮)同期会(2006.2.23)  
昭和35年度育英寮同期生15名、閉鎖中の旧寮舎に集まり、旧寮監橋谷先生、残留委員一郷正道・調紀、先輩吉元信行三氏臨席のもと、物故者追弔会を厳修。その後、「みやこ鳥」で懇親会を催し、尽きない話に時を過ごした。

# 通信

## 「御縁を呼ぶ御縁」

大倉 有展

(一九九五年文学部真宗学科卒業)

寄席もお寺も座る場所を高座というのは、お説教をルーツとする庶民芸能である所以。落語の会場には度々お寺の本堂が使われる。噺の中にも宗派を問わず、お坊さんが登場するものも数多くある。現在、江戸落語四五〇人、上方落語二〇〇人の大所帯、しかも大卒の噺家がほとんどの近年においても谷大卒は未だ一人であるのは寂しい限りである。

高校時代の恩師が谷大卒であった御縁で私もこの学び舎に籍を置くことになる。学生時代、落語研究会には入らず、京都拳闘会というボクシングジムでプロボク



サーを目指したが、方向は一転し相撲マニアであった御縁で師匠である桂文福さんのもとに入門。三年の修業期間を経たのち、

プロの落語家とプロのボクシング選手という両極を同時にこなす生活が始まった。ほっこりと人を笑わせる仕事、かたや威嚇して人を叩きのめす仕事、極度の減量で顔付きも厳しく、栄養が回らないので記憶力が鈍る、試合で意識不明になり翌日からの高座も休演になった。まさに二兎を追う者は一兎をも得ずのたとえ通り、かなりのまわり道をしたものだ。

しかしそれが御縁で毎年の独演会にはボクシング選手や総合格闘技にたずさわる方が足を運んでくださる。

また谷大卒という御縁で堺・真宗寺院が会場のそば打ち寄席では毎回大きな本堂に満員のお客様が、愛知県額田の寺院主催寄席では毎年三〇〇人を超える町民の方に集まっていたいただきます。

我々の世界は、噺の実力が四割、人の御縁が六割という妙な世界、全ては縁というものが人と人、所と所を結び付けてくれる。

出会う人は一人として無駄な御縁は無いと感ずる。

(上方落語家・元プロボクサー)

桂文鹿

ご結婚  
おめでとうございます



幸せなご家庭を築かれることを  
念じ申し上げます。

(内は最終卒業・修了年 敬称略  
同窓会本部掌握分)

専源講堂にて結婚式を挙行  
昨年九月十八日(日)、本学同窓生の中澤明司さん(二〇〇三年博士後期課程満期退学)と藤本有香さん(二〇〇一年文学部卒業)の婚儀が仏前にて執り行われました。



栗山 泰典(H13文)	原 佑貴子
中澤 明司(H15博)	藤本 有香(H13文)
藤元 雅文(H17博)	谷岡 加名
廣川 智貴(H9文)	中原 香織
栗山 大(H11文)	木下紗矢香
霧井 省三(H7文)	数河 美保
飯田 拓也(H9文)	上 文
加藤 淳(H15修)	川畑 正美(H15文)
八岡 宏祐(H11文)	大島あかね(H12文)
宮本 亮(H10文)	佐合 典子
久保田就介(H16文)	森津 夕貴



# 窓

# 同

## 「学生相談室からの一歩」

市原 亜紀

(一九九九年文学部哲学科・倫理学分野卒業)

学生時代を振り返ると、まず一番に浮かび上がってくる光景。それは冬の夕暮れの学生相談室である。当時、ある問題を抱えて潰れそうになっていた私は、たまたま学生相談室の存在を知り、ためらいつつもそこに足を運んだ。

その時自分が何を話したのか、実はほとんど覚えていない。ただ、私の言葉に誠心誠意を傾けてくださった相談室のA先生の存在が驚くほどに温かった。

あれから七年。私は現在、精神障害者地域生活支援センターでソーシャルワーカーとして働いている。心の病を抱えた



方々が、病気や障害を持ちながらも、地域で安心して生活していくために何が必要なのか、そして自分らしい生き生きとした暮らしを実現するためにどうすれば

よいのか、一緒に考えながら様々な支援を行っている。

支援センターには、「人間関係がうまくいかない」「過去の辛い体験に囚われて苦しい」など、毎日様々な心の病を抱えた方やそのご家族等が相談に来られる。苦しい人生を歩む過程で、少しずつ凍りてしまった心を溶かすのは容易ではない。しかし、A先生が私にしてくださったように、相談に来られた方の言葉に心を傾け、心と心をリンクさせることで、少しでも温かみを感じていただければと日々努力している。

社会福祉領域には、保健や医療、地域団体と連携を取り、障害者の地域生活を支えるネットワークというものがある。

今年、このネットワーク主催の普及啓発イベントで、A先生にご講演いただくことになった。ひとまわり成長した私でお会いできれば良かったのだが、実はあの頃と何も変わっていない。変えられない自分を責めた後で考えた。変えられないものを受け入れる勇氣、変えられるものを変えていく勇氣を持って、次こそは胸を張って先生にお会いしに行こう！

(特定非営利活動法人なんてん)

西京地域生活支援センター勤務)

## 敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、  
謹んで哀悼の意を表します。  
( )内は最終卒業・修了年、敬称略  
同窓会本部管理分

亀塚 忍	大専門 (S 18)	H 17 . 4 . 6
蒲池 寿雄	修士 (S 35)	H 17 . 4 . 19
山田 公三	大予科 (S 24)	H 17 . 5 . 21
伊藤 裕	大専門 (S 18)	H 17 . 5 . 27
柏樹 昭	大専門 (S 21)	H 17 . 7 . 3
吉田 迪磨	大学部 (S 23)	H 17 . 7 . 6
鎌田 勲	大専門 (S 16)	H 17 . 8 . 13
井上 元	大専門 (S 16)	H 17 . 8 . 17
進藤 龍成	文学部 (S 30)	H 17 . 8 . 17
水尾 現誠	博士 (S 38)	H 17 . 9 . 14
名畑 龍童	文学部 (S 33)	H 17 . 9 . 14
坂本 弘	大学部 (S 11)	H 17 . 9 . 19
鳥毛 篤	大専門 (S 18)	H 17 . 9 . 21
大谷 和雄	大学部 (S 27)	H 17 . 9 . 23
経塚 斎	大学部 (S 23)	H 17 . 9 . 27
佐々木教悟	大学部 (S 12)	H 17 . 9 . 29
秦野 肇璋	大学部 (S 26)	H 17 . 9 . 29
小林 知旭	大選科 (S 17)	H 17 . 9 . 30
柘植 蘭英	大専門 (S 13)	H 17 . 10 . 5
淀淵 静致	大専門 (S 13)	H 17 . 10 . 5
岡本 正巳	大専門 (S 18)	H 17 . 10 . 9
土室 昂	大学部 (S 21)	H 17 . 10 . 9
大神 順	大学部 (S 19)	H 17 . 10 . 17
北條 元則	文学部 (S 57)	H 17 . 10 . 20
西田 淳一	大学部 (S 26)	H 17 . 10 . 27
貝沼 静春	大専門 (S 10)	H 17 . 11 . 2
石山 智実	文学部 (S 60)	H 17 . 11 . 6
桂 博一	大学部 (S 28)	H 17 . 11 . 10
本田 滉雄	文学部 (S 31)	H 17 . 12 . 1
木村 暢秀	文学部 (S 34)	H 17 . 12 . 21
鳥居 三明	修士 (S 35)	H 18 . 1 . 27
小野 良世	博士 (S 49)	H 18 . 2 . 18
結城 性瑞	元事務職員	H 18 . 3 . 2

「仏教の人間観と慈悲」

親鸞聖人は

一切の有情は、みなもって世々生々の父母兄弟なり（『歎異抄』第五条）、と、八世紀インドの学匠カマラシーラ（蓮華戒）は

無始以来の輪廻において何百回（と輪廻転生する）うちには、自分の血縁にならなかつた有情は誰もいない（『修習次第』初篇、中篇）、と、

四（五世紀のアサンガ（無着）は一切の有情は、無始よりこのかた生死を遍歴し長時にわたり流転するとき、互いに、父、母、兄弟、姉妹、師、高貴で権勢の人に、ならないことはない。かかる因縁によって、一切の敵はみなわが友人でないことはない（『瑜伽師地論』「聲聞地」）、と、

仰せられた。さらに、原始經典にも同趣旨の文言がみられる（南伝第十三）。これらの文章は、いずれも、仏教の深くて広大な人間観を語っている。しかし、地縁血縁といった言葉が死語となりつつあり、「私のいのち」と表現し、いのちを私物化し当然のごとく思っている現代人には了解しにくいこともかもしれない。右の文章は、一方で、生きとし生けるものすべてを自分の父母兄弟なりとは思えぬ私であることを、他方で、時間的・空間的に無限

にして無量のいのちによつてはじめて生かされている私であることを教えてくれる。

かかるわが身の真実にもとづいて、聖人は

親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそつらわず。

と、意表をつく発言をされ、カマラシーラも

何らかの差別（心）があれば、或る者には愛着し、或る者には怒ることになるから、それゆえ、自己とすべての有情に対し、心をまさに平等にすべきである。

と述べる。従つて、聖人の仰せによれば、わが家の先祖のため、日本国民のためと一返にても念仏せず、ということになる。

この自他平等の慈悲の精神は、次の如き曾我量深先生のご了解に帰結するといえよう。

我々は宿業という世界に来ると、凡ゆる人の心持がみな分る。そして凡ゆる人がみな血の繋がりをもち、だから凡ゆる人のしたことは、皆自分の責任である。（『歎異抄聴記』第十一講）

大谷大学教授・仏教学

一 郷正道

表紙絵

「加茂街道の春」

45.5 × 33.5 cm 二〇〇六年作

烏丸通りは地下鉄が走り、北大路バスターミナルは大学の目と鼻の先にあり、大谷大学は現在では最も交通のアクセスの良い京都の大学の立地条件を満たしている。

そして、大学の周囲は美しい環境であることにより魅力がある。キャンパスの屋上にあがれば夏の五山の送り火もほとんどが一望できる。水清き賀茂川が近く、府立植物園もすぐ近くにある。広大な植物園は二百円と入園料が今も安く、四季折々の美しい花木が見られていつ行っても楽しい。梅や桜、薔薇、花菖蒲に蓮や朝顔、菊に椿がかなりの数で次々と花開く。花は見るだけでなく下手でもよいから自分で写生をすると新しい発見があることが多い。写生は構えないでスナップ写生をとるような気持ちで軽く始めたら楽しいのと思ふ。

大学の南側、紫明通りの木々は大きく成長している。以前そこは疎水が流れており、その上を埋め立てて植えられた木々は今や大樹となった。烏丸通りから賀茂川に突き当たるまでの紫明通りの銀杏は、京都でも有数の黄金色の美しさを見せてくれる。出雲路橋から上賀茂橋に至る賀茂川西の櫻の並木も美しい。私は学生の頃、西賀茂の尼寺に下宿をしていて自転車で加茂街道を走っていたが、どの季節もその櫻の並木が見せる表情が大好きだった。特に春が来て裸木から枝先が紫がかり、やがて新緑の葉を見る春の頃が最も美しく感じた。

このような美しい環境にある大谷大学の学生は幸せである。この美しさを美しい、有難い、と感じなければその人にとって何の益もない。学問は部屋に籠るだけではない。自然と共に学び、問うていかなければ、人生の喜び豊かではない。

畠中光夏（昭和四十五年文学部卒）

大谷大学非常勤講師

京都造形芸術大学教授

2006年3月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部  
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内  
電話(075)411-8124 FAX(075)411-8157  
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともすようなものである。譬えば一つの燈をともすやうなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。